

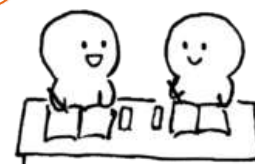
早稲田大学インクルーシブ教育学会

ニュースレター

2023年（令和5年度）NO.2

授業改善のためのワークショップ[®]

第2回研修では、本学会副会長の高橋あつ子先生にインクルーシブな教育が進んでいる国での実践例とポイントを解説していただいた後、授業改善に向けてのワークショップを行いました。



対面でもオンラインでも受講可能なハイフレックスで、対面は高橋先生、オンラインは本田先生のサポートを得ながら、参加者が協同的な学びを進めました。

インクルーシブな授業がうまくいかない理由ってなに？

インクルーシブな授業を目指すにあたって、参加者の皆さんが現在感じているバリアについてブレインストーミングを行いました。各班、多くのバリアが出て、互いに難しさや大変さを共有しました。その時に大切にしたのは、「なぜ、できていないのか」を生徒側、教員側、環境等に分けて要素を深掘りしていく姿勢でした。そこから見えたのは、子ども理解の視点や知識、子どもや組織を動かしていくために必要な動機づけや組織づくりへのグループダイナミクスの動かし方やスキル等でした。

| 対面 | オンライン |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・他の学級と同じ教材を使わなくてはいけない・組織がチームになれていない・子どもが主体になれていない・時間や余裕がない・自己肯定感が低い子が多い など | <ul style="list-style-type: none">・子ども理解ができていない・学びの障害を把握できていない・困ったときの相談相手がいない・組織として取り組めていない・多様な生徒たちを見取れていない など |

解決するためにはどうすればいい？

次にブレインストーミングで各々が出したバリアに対し、インクルーシブに向かうための具体的な解決策について話し合いを行いました。

| 対面 | オンライン |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・生徒の「WHY」の視点を大切にする・ルーブリックを有効に使用する・目的の共有を図る・生徒が「わからない」を気軽に言えるようなシステムの検討 など | <ul style="list-style-type: none">・生徒が学ぶためのツールを増やす・レベル別のプリントを用意する・叱るではなく気づかせる・生徒を多面的な見るための視点を共有する・校内で合意形成をはかる など |

それぞれのバリアの悩みに対して、いろいろな視点から多くの意見が出され、あっという間に時間が経ちました。協同学習により、多面的な視点が得られたり、自分が見ていた景色と違う景色が見えてきたりと、自分では想像のつかなかった視点や支援についてもたくさん触れることができ、インクルーシブ教育についての視点が広がりました。

各グループで出たことの共有

最後は、各グループで出たバリアとそれに対する解決策について、それぞれの班員が自分たちのグループで出た話を持ち寄り共有しました。ミックスグループ方式をとり、全員が発表し合う形です。自分たちの班の中だけでもたくさんのバリアについて共感しあい、解決策のヒントを得ることができましたが、他の班の話を書くことにより、さらに学びが広く、深くなっていきました。



今回はハイフレックス研修ということで、現地組とオンライン組がありましたが、どのような形でも「学びを深める」ことができる、ということも再確認できました。

ご参加の皆様からのアンケート(一部抜粋)

- ・学びに対してどのように向き合うかということを経験できたように感じます。私自身様々なことを考え、教育に対する考えや視野を広げることができました。生徒にもこのような体験ができるよう学習活動について考えていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・児童生徒教師に発言や発表を求める授業では、その子の理解ができる言葉を考えたり、意見を吸い上げてまとめる ICT を効果的に活用して、短時間で疲れず解りやすく楽しい充実感ある授業作りの研修が必要だと思いました。



第3回 研修会題目

「北欧から学ぶ、多様性が当たり前の生活と教育～多数派、少数派を体験して」

日時:2023年8月6日(日)13:00~16:00

場所:早稲田大学 中野国際コミュニティプラザ(対面)

および、 ZOOM によるハイフレックス研修

講師:早稲田大学 教育学研究科 教授 高橋あつ子氏



次回は、世界のインクルーシブ教育がどのように進んでいるかをより多くの方に知っていただくために無料の講演会となっております。お仲間をお誘いの上、是非ご参加下さい。

